

家庭教育力の強化を図ろう

「子どもと共に豊かな心を育てよう—温かな家庭から育む—」

プロフィール

地 域

三好町は名古屋市の東部に位置し、人口5万7千人の日本一平均年齢の若い町である。自動車関連の工場が立ち並ぶ。かき、なし、ぶどうなどの果物畑、池など豊かな自然にも恵まれ、発展している。

学 校

明治6年開校。児童402名、学級15学級、教職員21名。「思いやりがあり心身ともにたくましい子」を教育目標とし、明るく活気に満ちた学校づくりと全員が参加する授業づくりを進めている。

PTA

会員308名。家庭・学校・地域が一体となり子どもたちの健やかな成長を願う活動を展開している。会員の生涯学習や家庭教育、学校・地域の環境整備、親子のふれあい、地域との連携に努めている。

1 はじめに

中部小学校は三好町の中心部の高台にあり、校庭から保田ヶ池を眺めながら勉強のできる、景観に恵まれた地に建てられている。学校の歴史は古く、明治六年に開校し、百三十年を超える歴史と伝統を持つ。児童数は千人を越えた時期もあったが、天王小・三吉小と分離し、現在では四百名余りである。校舎の建て替えて近代的な学校となっているが、私たちの子どもたちの頃からある大きくすの木は学校のシンボルとして今も玄関先どつしりと根を張っている。

本会は役員会（正副会長・書記・会計）と実行委員会（厚生・広報・環境・教養・家教の五つの各正副委員長）とで活動の企画と推進を行っており、学校委員会は、実行委員会のいづれかに属して、子どもと会員のための行事や研修を実践してきた。

2 活動のねらい

今年度の学校教育目標「思いやりがあり、心身ともにたくましい子」の育成に向けて、明るく活気に満ちた学校づくりを学校と連携して取り組んできた。家庭・学校・地域が一体となり子どもたちの健やかな成長を願うPTA活動を展開した。家庭教育学級では会員の生涯学習及び家庭教育に関することを推進してきた。また、親子資源回収や親子美化活動を通じて学校・地域の環境整備に努めるとともに



祖父母学級
祖父母と一緒にサンドイッチを作って楽しく会食

当日は子どもたちと祖父母がふれあい活動を行った。昔の遊び（お手玉、けん玉、ビー玉など）、牛乳パックでブルメラン作り、牛乳パックボーリング、サンドイッチづくりなどを一緒に行った。参加した方も笑い声が絶えなかった。普段テレビゲームなど

に、親子のふれあいを深め、地域の方々との連携を図ってきた。家庭も子どもも豊かな心に育つことが家庭の教育力向上や子どもの基本的な生活習慣の確立につながると考え実践した。

3 主な実践活動

（1）学校諸行事への応援

【祖父母学級】

祖父母学級は毎年九月中旬に行われる行事で、今年も同居の有無にかかわらず、二百四十名を超える参加があった。

で遊んでいる子どもたちにとって、実際に手で触れて遊ぶ経験は貴重だった。

参加した方からは、「孫がどこかで勉強し遊んでいるかを知りうれしかった。一緒に学べてとても良かった。」という声が聞かれた。また、今年度は子どもが手作りがきを祖父母に送った。祖父母の心を打ち、たいへん好評だった。遠方の参加できない祖父母には郵送で送った。三世代のふれあい・交流のよい機会となった。

（2）広報活動を通じて意識を高め、地域連帯を深める

【広報誌の発行】

広報誌「くすの木」を年三回発行し、PTAの活動、学校行事、子どもの様子など紙面を通じて保護者や地域に伝えている。写真やイラストなどを多く取り入れて分かりやすく親しみやすい紙面作りを心がけた。

（3）学校・地域の環境整備に努める

【資源回収・バザー】

資源回収は年二回行った。子どもの家庭だけでなく、地域の方々にも協力を依頼し実施した。バザーは子どもの家庭に呼びかけて、出品物を集めて販売する。バザーや資源回収で得た収益金を用いて子どもの豊かな心を育てるための事業に充てる。

【講演会・観劇会】

昨年度は講演会を実施した。プロ野球の元選手を招き、児童代表と実際にキャッチボールをしてふれあいをもった。今年度は、劇団による夢と感動を与えるような観劇会を催した。

【親子美化活動】



親子美化活動
お母さんと一緒にガラス拭き

親子美化活動は親子で学校を美しくする活動である。子どもたちにも働くことの大切さを知ってもらうことを目的として、校舎内のガラスふき、校庭の草取りなどを行った。親子のふれあいを深めることもできた。

(4) 会員への生涯学習の推進

学校保健委員会を二回開催し、コミュニケーションのとり方や食について学んだ。

【楽しく友だちとかかわろう！エンカウンターを通して！】

○実施時期・・・六月

○対象・・・六年生児童と保護者

○内容・・・大学教授による人間関係づくりの講話とスキル

活動では実際にゲームをしながら人とかわかっていった。はじめは、親も子も交じって、無言で誕生日順に一つの輪をつくるゲーム。それぞれジェスチャーで人の誕生日を知ったり自分の誕生日を示したりしながら自分の位置を



学校保健委員会
栄養について学ぶ子ども

確認していく。制限時間があるので皆必死で人とかかわる。次は「じゃんけんサッカード」握手をしてじゃんけんしどんどん勝ち進むと得点になる。会場は笑顔と笑い声でいっぱいとなった。

【朝食のパワーを知ろう！】

○実施時期・・・一月

○対象・・・四・五・六年児童とその保護者

○内容・・・児童保健委員の調べたことの発表・クイズ・給食センター栄養士の講話

保護者はもちろんのこと子どもたち自身にも朝食の大切さを一緒に考えることで、毎日の食生活習慣がきちんとし、健康に過ごせるようにと願い実施した。子どもたちは朝食の実態をよく調査して発表した。親の方がはつとさせられた。講師の栄養士からも朝の栄養摂取が大切であることを教えていただいた。

二つの活動を通して、家庭でのコミュニケーションのとり方のヒントにもなり、また、食については朝食の大切さについて学ぶことのできた貴重な機会だった。



家庭教育学級
場面想定（子どもと親の役）で子どもの気持ちをつかむ

境問題の考え方を
どを楽しく学ぶこ
とができた。
また、子どもの
人権を守り、健や
かに育てるための
講習も実施した。
実際の場面を想定
して、子どもの相
談に乗る親の役割
など実際に演技し
てみることで子ど
もにどう対処して
いくかを学ぶこと
ができた。

（５）家庭教育に関することの推進

【家庭教育学級】

活動は、スポーツ・文化的教室や講演などを開いた。子どもが喜ぶパン作りや童話作家の講演等を行った。楽しい雰囲気の中で行うことで保護者同士の親睦を深めることで、自分の子どもだけでなく、他の子どもにも声をかけやすくなり、安全・見守りの面でも効果が上がっている。

学んだことを生かし、家庭で子どもと一緒に楽しく料理することはとても素敵なことである。親子で料理しながら食育について考える機会にもなった。

童話作家の講演では、本が与える影響・絵本から学ぶ環

4 おわりに

実施した活動の様子から一つ一つの活動には意義があり、大切なことと実感した。すぐに効果を求めず、継続することで子どもの成長を育んでいきたい。実践してみても子どもたちが心ゆたかになるためには、まずは、私たち保護者が心ゆたかになる必要がある。そのためには、今後とも子どもと共に学び、共に育つ自覚を高め、親子のふれあいを一層深める活動を通して、家庭教育力の推進に努めていきたい。

展望

子どもも保護者も豊かな心に育つことが家庭教育力の向上や基本的な生活習慣の確立につながるとして取り組んでいる実践である。祖父母学級に二四〇名以上の参加があったことから分かるように学校、家庭、地域との関係が大変強いところにこの取組の特徴がある。学校の教育活動と連携し、資源回収から講演会、美化運動、家庭教育学級など幅広い活動を展開している。どこにもあるような実践ではあるが、確かな豊かさを感じさせる。